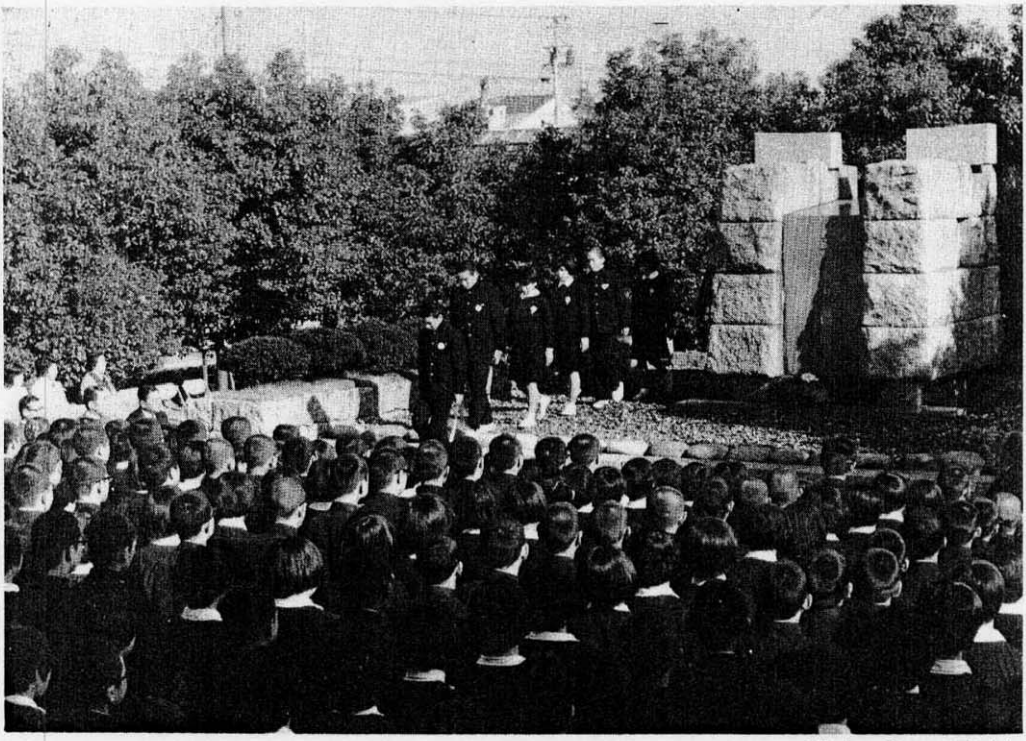
愛語能く廻天の力あることを学すべきなり。

（正法眼藏）

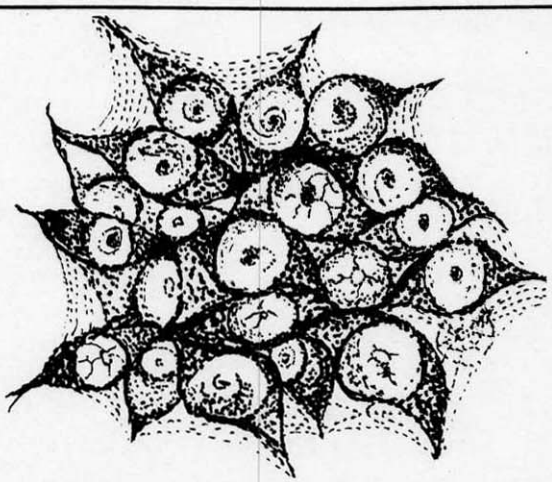
「愛語というは願愛の言語を施すなり」ともあります。このごろ、わたしたちの周囲に〝いたわり〟のことばが少くなったようです。日々、ものやわらかいことばをつかいたいと思います。

早川久右エ門



（立志の塔　城北中）

昭和四十九年三月一日・編集発行・岡崎市教育委員会



恩愛われを去りぬ

鈴木弥一郎

私がまだ二十三歳の頃のことであった。「この子は先生にお任せします。世間に恥しくない良い子にしてください。ぶっても蹴ってもかまいません」とK君の母親は言われた。ある日「修学旅行は一生の思い出となるから自分の着物を質に入れて、旅行費を持たせたがKには夜尿の癖があり、もし旅館で漏らしでもしたら、一生の赤恥をかきます。どうしましょうか」と切々と親心を訴えられた。私は一週間抱いて寝て、五回浸水禍にあいながらも、不眠不休の努力によって、無事修学旅行を終えて、母と共に生姜糖をなめながら喜び合ったことであった。

そのK君が立派に成人して海兵団に入団した。それを喜んで日本の母として面目がたったと涙を流して報告にこられた。K君の戦死の公報が入った時、この母親はすでに世になく、病に伏して呻吟する父の枕頭で、亡き母と兄の位牌に向かって鳴咽する幼き弟妹と共に合掌した。それは空襲警報発令下の暗闇の中であった。その後の弟妹の苦難の道を憂いながらも、この身もまた男涙の子守唄を歌いながら闘病に明け暮れたのであった。爾来三十年の月日が過ぎてしまった。

少年野球全盛時代、私の受持ったチームが岡崎地区のリーグ戦に優勝した。その時ファンから貰った記念の石蛙が、今も私の家の床の間に蹲居している。チームに器用な投手S君がいた。彼は高校野球・プロ野球と花形選手になり、時代の脚光を浴びていた。ところが第二次世界大戦に出陣して、満洲の荒野を転戦し無事帰還した。その間に父母は他界し、近親は四散した。加うるに道義は地におち、人心はすさび、彼も世相の混濁に蝕まれて、遂に拘置場から私にSOSを送ってきた。

S君の身柄を貰い下げて更生せしめんと、検察当局へ出頭してみれば、物統令違反、寸借詐欺、学校荒し等の常犯者であった。受刑中に恩賞の至情切々と長文の便りを幾十通と送った。超満員の刑務所は私に身柄を托して仮釈放を伝えて来た。新聞の求人広告を頼って幾十箇所を歩き回ったが、前科者を受入れる職場は至難の限りであった。県内に定着せず他県にて就職し結婚した。前科が露見して失職し、悪性流感にかかり、米屋も八百屋も借金が積り、米一粒、葱一本入手できず、死か！悪か！「進退極って主人はもだえています。」とS君の妻女は私を尋ねて来た。釈迦の説法も、至誠の限りを尽くし百万言を費して綴った私の手紙も彼を蘇生せしめる術とはならないことを知らされた。教育力の限界のようなものを感じた。娘に正月の晴着を買う約束を破棄し、己の薬餌の費用を絶って、年末ボーナスの全額をS君夫妻にくれてやり、越年越冬の生きる道の険しさをしみじみ感じた。爾来二十年の月日は過ぎ去った。近頃は彼からは年賀状もこなくなった。四十余年来の恩愛の絆をたぐりつつ、教育の道の厳しさを惟う。（岡崎市助役）

卒業式

いまはむかし

●羽織と袴

明治のころの卒業写真を見ると、絣の着物と羽織・袴で身を固め、髪を蝶蝶に結った子もいれば、帽子をかぶらない子もいる。緊張した中にもポーズを忘れない現代っ子とは違って、そこには緊張と好奇心が入りまじった面持がある。

●卒業の歌

卒業の歌一つにも、歴史と思い出がある。在校生は、（留まるわれわれ）（業をしはたしし嬉しさは）（文の林に入りしより）、そして「蛍の光」を歌っている。（我等はこれより）や「仰げば尊し」は、卒業生の歌である。昭和になると、教室の仕切りを取り外してつくった式場で、しわぶき一つ立てずに（うれし、うれしや）と歌ったこともあるという。

また、送別の辞や答辞の出来具合が、式の成果を大きく左右した時代であり、優等賞に話題が集中した時代でもあった。

●奉公の誓

昭和十六年三月、国民学校令が公布され、翌十七年から二十一年までは修了式となる。愛知第二師範学校附属国民学校では、修了證書と同時に、次の文面の用紙が初

教壇一年

●一年をふりかえって

この一年、日々の執務をこなしていくのに精一杯で、養教本来の役割りを果たす余裕など全くなかった。来年度こそ、子どもの中へとびこむ余裕と、幅広い養教へと成長する足がかりをつかみたい。

常磐南小　**上田　美恵子**

●求める前に与える教師に

「駄目じゃないか」「何をやっているんだ」と一喝する前に、果たして教師が子ども達に的確な指導をしたか、自分自身に問いただしてみる。常にそういう姿勢をもち続ける教師でありたい。

男川小　**木村　光　伸**

●教えられた一年

一年間に子ども達が私から学び得たことよりも、私が子ども達から教えられたことの方が何倍も多かったと思います。そして、失敗の連続の中で経験し考えたことは、私の血や肉となったと信じます。

矢作東小　**山中　三江子**

●先生と呼ぶことに対する抵抗

戸惑いを感じつつも、子どもの前で自分を先生と呼んだり書いたりするようになった。こうして一年たった今、私は惰性でなく、真に先生と言って恥ずかしくない自分を目標に頑張ろうと考えている。

常磐小　**吉田　裕　保**

●生きがい

充実した一年だった。生きた子どもたちがおり、私の歩みが直接子どもたちに生きる。とまどったり、情けなくて涙を流したこともある。でも今は〝ずっとこの仕事を続けたい〟と願っている。

六ツ美北小　**小野田美恵子**

●子どもに学ぶ

失敗の連続の一年。子どもに多くのことを教えられた一年。子どもと接していると人間と接していると感じる。これからも、彼らと共に僕の目指す人間像に一歩でも近づいていきたいと思う。

矢作南小　**外内　幾　雄**

●新卒の年

豊橋鬼祭りの時期になった。数か月の担任としての務め、全力投球の連続である。全員顔を揃えた朝、喜色が浮く。一限を過ごす時、充実感が奔る。帰る時の一礼、なぜか惜しまれる。

福岡中　**白井　伸　幸**

●教師になりきれない新任教師

ずいぶんおこごとをいただいた一年。——君がいるとクラスが乱れるんだ!?気がつくと教師の立場で教育的配慮することなど、コロッと忘れて生徒と一緒、というより私が諸悪の根源だったかな。

矢作中　**鳥山　千　里**

●楽しい時間

先輩から「本採用おめでとう」と言われた時の嬉しさと、「君は教員向きではないよ」とも言ってほしかった複雑な気持ち。今、一番楽しい時間はと問われたら、「生徒と一緒にいる時」と答える。

南中　**椰野　勝　政**

●私の近況

先生といわれ始めて早一か年。思ったとおり授業が進まないのが悩みです。たまに私の考えたペースで授業が終わると、生徒曰く。「先生ってぼくたちがわからんでも進んでいくう?」といった具合。

美川中　**鈴木　笑　子**

等科修了者ヘ手渡された。

（一本気デアレ　一キリツヨクセヨ　一ヤッカイニナルナ　一タメニナルコトヲセヨ　修了ニ際シ右ノ校訓ヲ更メテ銘記シ将来本校修了者タルノ矜持ヲ保チ各自己ノ本務ニ邁進シ以テ奉公ノ誠ヲツクサンコトヲ期セヨ）

あわてて「第一回・修了」という語句が切りはりされた、昭十七年の連尺国民学校の写真帖。それらの記録物の中から、焼け跡での卒業写真も見つかった。

●立志の塔

昭二十二年、六三制の成立。新制中学校の中には、小学校の校舎を借用して開校式を迎え、あわただしい木槌の音の中で卒業生を送った所もある。岩津中の卒業生には、高校の講堂で式を終えた者もいる。ある年の常磐東小では、校長が歌の伴奏に駆り出され、席の暖まる暇もなかったという。昭三十八年の六ツ美南小では、「希望の虹」と「よろこびの歌」を呼びかけ形式の中で歌い、笑顔で去る卒業式を挙行した。校歌が式にとり入れられたのも、その頃のことである。

表紙の写真は、自分の誓いや希望のことばを納めた城北中の立志の塔である。塔こそは、卒業生の心の故郷であり、母校と結ぶ強いきずなともなっているということである。

（稲石正逸・小浜保・石井錬児・杉浦尚夫先生のお話から。）

見たもの 得たもの 残るもの

ことし海外研修をした人たち

氏名	校名	旅行先	主催・企画団体
山本　松寿	矢作中	南米	文部省長期研修
木藤　広二	甲山中	アメリカ	文部省短期研修
鈴木　聡一	甲山中	アメリカ	文部省短期研修
畔柳　正弘	六ツ美中	アメリカ	日米協会国際教育交換協議会
林　勝己	岩津中	カナダ・アメリカ	県教育委員会
近藤　正義	矢作東小	ヨーロッパ	愛知教育大学地理学教室
大久保　正	岡崎小	ヨーロッパ	愛知教育大学地理学教室
平岩　啓子	甲山中	ヨーロッパ	全国教職員互助団体協議会
星野　正夫	根石小	ヨーロッパ	海外デザイン交流協会
加藤　明	竜海中	ヨーロッパ	全音楽譜出版社
後藤　和彦	葵　中	ヨーロッパ	全音楽譜出版社
小嶋　博美	美川中	ヨーロッパ	全国教職員互助団体協議会
竹内　丈治	六ツ美中	アイルランド	個人
鈴木　和夫	葵　中	ヨーロッパ	文部省短期研修
早川　円浄	井田小	ヨーロッパ	文部省短期研修
黒野　喜美	福岡小	西ドイツ	県教育委員会
浅井　善一	根石小	ヨーロッパ	全国都道府県教委連合会
三浦　重光	常磐南小	インド・アフガニスタン	名城大学第4次ヒマラヤ調査隊
渋谷　環	広幡小	東南アジア	文部省短期研修
川島　良夫	井田小	大韓民国	大韓民国文部省
菅沼　剛	六名小	中華人民共和国	総評
原田　市郎	南　中	ケニア・ヨーロッパ	WCOTP日本教育者連盟、全国中学校長会

「日本人は頭がよく、努力する。しかし、陰険で集団をくみ、人間的ではない。」とブエノスの女医大生からきかされた時はショック。私はひょっとしたらこんな子どもに育ててはいないだろうかと。

矢作中　**山本　松寿**

どこへ行っても、街を歩くといろいろな人がいる。白、半白黒、半黒白、黒、真黒、うす黄、黄色、服装もはだか、うす着、厚着、一切他人にはおかまいなし。まことにおもしろい。

甲山中　**木藤　広二**

ニューヨークで、他のグループの日本人が、留守中、部屋の中の現金をやられた。私は、サンフランシスコで「日本人か」「イエス」「タバコくれ」「プリーズ」結局、たかられた。

甲山中　**鈴木　聡一**

人種、民族、国民という概念が重なり合わないアメリカ。開拓者魂に生きる人人と、夢を失った人々とが、広大な土地に散在するアメリカ。「視る眼」をもたないと理解できない国である。

六ツ美中　**畔柳　正弘**

ホームスティのリプレイ家。「ここはあなたの家であり、私たちの家でもある」とは主人の話。夕食のお祈り、日本語のあとに「アーメン」とやった。結構喜んでくれた。ここでの八日間が懐しい。

岩津中　**林　勝己**

フランスはリヨンのホテル。案内嬢に「引率者はどこか。」と尋ねられた。即座に「彼は食事です。」と答えた。彼女いわく"Oh I see"何でも言ってみるものだ。

矢東小　**近藤　正義**

「日本風に消化したヨーロッパ文明」は、いかにも表面的である。独特の風土と長い歴史の過程で生み出されたヨーロッパ文明の神髄が、どれほど深淵なものであるかをあらためて痛感した。

岡崎小　**大久保　正**

「マジョーレ、カンターレ、アモーレ」十五日間のヨーロッパは「リラ、ペセタ、ポンド、フラン、ドラクマ」で私を悩ませながら、何物にもかえがたい思い出を得た。

甲山中　**平岩　啓子**

日本人の子どもの絵には、黒色が多い。ヨーロッパの子どもの絵は色感が豊かである。誕生して最初に見つける印象としての色が日本人は無彩色的であり、外国人は有彩色的であるからなのだろうか。

根石小　**星野　正夫**

ヨーロッパを回るバスツアーで特に印象的であったのは、村の教会の鐘であっ

た。荘厳なパイプオルガンの演奏とともに歌った讃美歌の響きは、今も耳をはなれない。

葵中　**後藤　和彦**

竜海中　**加藤　明**

失敗談一つ。ローマのホテルでは浴槽のそばにひもがぶらさがっており、これはなにかとつい引っぱってしまった。非常用（？）のひもで赤いランプがついてしまい、メイドに叱られた。

美川中　**小嶋　博美**

アイルランドのシャノン、カウンティは工業化の発展に努力しており一昨年ECに加盟して以来、その努力にいっそう拍車がかかっている。教育程度は高くないが、かなりの努力が払われている。

六ツ美中　**竹内　丈治**

ことばの通じぬ人間の理解は盲目であり、そこに流れる文化を知らぬ観察は空虚である。学ぶことの必要をじかに教えられ、活字に生気を感じているこのごろ。貴重な体験であった。

葵中　**鈴木　和夫**

ヨーロッパ人は自国の歴史や伝統を継承する精神が旺盛である。加えて近代化への融合、発展に惜しみない努力を払う。建築物、公園、自然の統一美がこれをはつきりと証明している。

井田小　**早川　円浄**

先日、西ドイツ通訳の手紙に「昨日は奇数車、今日は偶数車と石油削減の交通規制がみごとに守られて…。」とあった。食堂でスプーンが光るまで水分をふきとるボーイ。この徹底ぶりのエネルギー源は……。

福岡小　**黒野　喜美**

フランス・イギリスに始まりスペイン、ポルトガルを経てイタリア、ギリシヤに至るコースは、ヨーロッパ文化の源流をさぐる実にすばらしいものだった。歴史の積み重ねの偉大さを痛感させられた。

根石小　**浅井　善一**

四〇〇〇mを越えるコイババ山系の蝶は、まだ採集されていない。われわれ乾燥した薄い空気と戦い、ジャクモンティー、マルコポーロをはじめ、多くのタイプ標本を得ることができた。

常磐南小　**三浦　重光**

人種、言語、宗教が複雑に錯そうするなかで、部族的結合（核となる同族意識）を支えとしてきた熱帯湿潤の東南アジア諸国、植民地支配の傷痕は深いが、経済発展への意欲が強い。

広幡小　**渋谷　環**

古宮や秘苑の間に近代ビルが林立するソウル、若い韓国の象徴である。「教育立国」「国籍ある教育」を柱とし、力強く国づくりにもえている。忍耐強く、たくましい民族の息吹きが感ぜられた。

井田小　**川島　良夫**

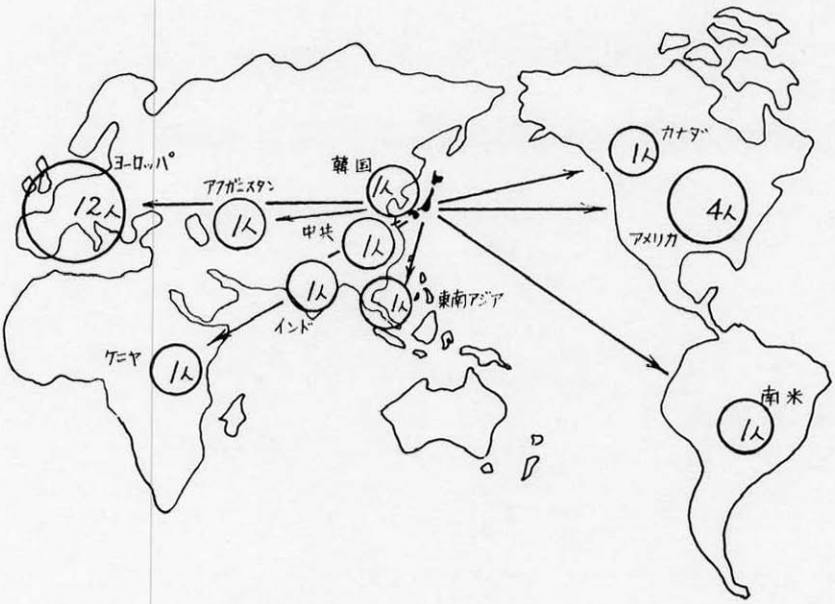
英語の授業。われわれが教室に入ってしまうまで拍手で歓迎してくれた。出る時も同様だった。すべての教室がそうだった。授業のじゃまをしてすまないという気持ちになった。

六名小　**菅沼　剛**

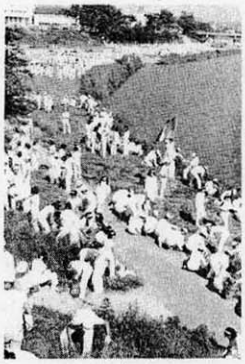
世界教育者会議（ケニア）、世界八八か国から六五〇人の先生が集まった国際会議で、平和と教育のテーマにより、情報の交換と相互理解を深め、親善にも大いに役立った会議であった。

南中　**原田　市郎**

昭和48年度　海外研修略地図



（若いエネルギーでゴー河川美化）



渇水――七月―

プールの使用禁止、噴水、洗車、撒水、などすべて中止。

一般三〇％の節水。厳しく苦しい夏だが、七月の降雨量四ミリではどうしようもない。

水泳指導もお手上げ。苦労して育てた花壇も全滅。

（緑と太陽の礎　緑化センターオープン）

あ　ゆ　み

4・7　養護教諭、養護婦全校に配置、市の保健教育一段と充実

4・27　自主研究の推進を目ざした現職教育委員会総会

5・20　若い力を結集した第十七回中学校総合体育大会実施

6・2　「清流をとりもどそう」と中学校生徒会河川美化総決起大会

6・8　県外研修打合せ会、教員二百名の全国への研修計画作成

6・16　仲新氏講演会「教育改革と日本の教育」

6・16　異常渇水により第一次給水制限

6・20　月報「岡崎の教育」創刊

6・30　東井義雄氏講演会「明日をつくる子どもたちのために」

7・1　緑化都市宣言、緑化センターオープン

7・4　視聴覚ライブラリー市立図書館へ移転、新機構で発足

7・11　六ツ美、南、美川、竜海の四中学校完工

7・17　文教都市岡崎にふさわしい偉容を出現

7・17　仲谷県教育長講演会「ゆとりある教育」

7・21　小学校ソフトボール大会（男子大樹寺小女子広幡小優勝）

7・21　市長杯中学校総合体育大会開始

8・1　大岡越前守展、岡崎では初公開と好評

8・6　渇水も一息、小学校水泳大会実施（男子井田小女子根石小総合根石小優勝）

8・17　おとな顔負け、中学校生徒会模擬議会

8・20　宿願の県立普通高校、五十年設置決定

8・30　郷土の歩み、岡崎の歴史物語編集開始

8・8　盛況裡に九月二日まで浮世絵名品展

9・28　梅園小研究発表会、長年の国語教育で、博報賞受賞

野外教育センターの利用盛ん――七月―

額田郡の千万町にある愛知県の野外教育センター。大自然に抱かれた環境、ホテルを思わせる近代的施設、ともにすばらしく近年利用校が激増。今まで学校毎にバラバラに計画していたが、本年より修学旅行のように、共同で立案、日取り、バス輸送などの便を図るようになる。

本年は小学校二十八校、中学校七校、計三十五校が利用。四十九年度は三十五校が利用の予定

海外研修

近くは韓国遠くはヒマラヤまで、さまざまな国で二十二名が研修を積む。夏休みに身銭を切って出かけたり、公費で貴重な体験をしたり。ことばはうまく通じなくても、万国共通の身ぶり手ぶりよろしく、汗だくで苦境を切り抜けた人。心臓英語でまくしたて相手の目を白黒させた人。中には日本人とみられず少なからずショックを受けた人もあるとか。

隠岐島地質研修旅行

はるばる隠岐島まで研修に――八月―

理科部有志のフィールドワーク。二十名で地質学の宝庫隠岐島まで出かける。

三日間昼夜を分かたずみっちり学習、本州ではみられない貴重な現象を数多く確かめ、隠岐ならではの収穫を得る。

酒井栄吾先生のよきご指導で、学究の道の楽しさと厳しさを改めて知る。同じカマの飯を食べハダカで論じ合った仲間も忘れられない。

（すばらしかった岡崎のハーモニー）

一年の

（やっぱり女の先生にはかなわない）

岡崎のハーモニー ―十一月―

例年ブロック毎に実施されていた連合音楽会と一クラブ発表の場であった音楽大会を一本化、音楽関係者長年の夢が実現。夏休み頃から、休み返上の練習、準備を重ね、すばらしいハーモニーを市民の心の中にしみ込ませる。

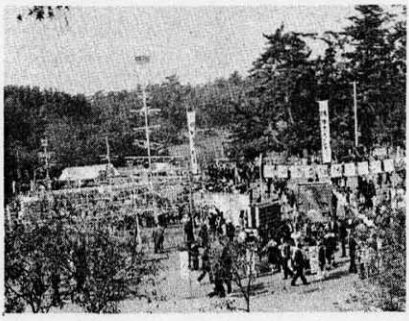
（ライオンズクラブの招待で特殊学級遠足）

10・19	「主体的に学ぶ心を育てよう」と理科研究発表会、大樹寺小学校
10・20	小中学校音楽会「岡崎のハーモニー」聴衆を魅了
10・21	中学校新人体育大会実施
10・26	山中小研究発表会「体力を伸ばす体育指導」
11・3	自然環境を生かした第十回おかざきっ子展、子どもの作品で埋まる東公園
11・3	小学校陸上競技大会（男子附属小、女子三島小、総合男川小優勝）
11・9	岡崎小学校自主研究発表会「自覚にもとづく体力づくり」
11・17	珍プレー続出、教職員体育大会
11・14	甲山中研究発表会「正しい姿勢」
11・15	岡崎の自然を見つめる理科展
11・20	葵中で三教研研究会「言語活動を育成する英語指導」
11・21	南中研究発表会「自発活動の育成」
11・24	教育文化賞授賞式・勝部真長氏の記念講演「勝海舟の魅力」
12・4	ライオンズクラブの招待で小学校特殊学級の遠足、東山動物園
1・	この頃学用品・資材等異常に高騰
1・18	東海中学校研究発表会「作文教育」
2・2	中国青年使節団、連尺小、城北中参観
2・13	石川勤氏講演会「新しい学び方」
2・5	六ツ美北小研究発表会「基礎をふまえた音楽学習指導」
2・20	海外研修報告会　本年度二十二名
3・6	三校（三島小、広幡小、岩津中）体育館完工
3・25	東部学校給食センター完工
3・	校舎増築（矢作東小、細川小、甲山中）

県外研修へ二百名

二十六県にまたがり、学校のみならず、研究所、諸施設も。中でも長野県は教育のメッカとして人気あり三十二名が出向。グループ編成も好評。

（自然のふところでおかざきっ子展）



中国青年使節団 ―二月―

躍進を続ける中国の若々しい青年使節団、二十二名。

連尺小と城北中を訪問。児童生徒と交歓会をもつ。校内の施設や授業を熱心に参観、子どもたちは、〝あまり外国人みたいな気がしない。日本人ととてもよく似ているから〟という。

それだけに身近な国として親しみを感じ、国際親善にもプラスとなる。

インフルエンザ ―十二月―

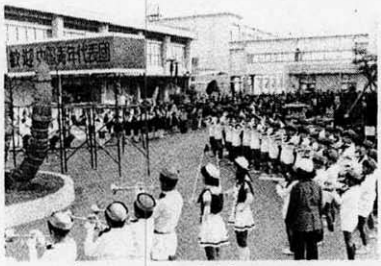
十一月から十二月にかけて猛威をふるい、学級閉鎖が続出。百二十五学級、二十二校にも達し、修学旅行・文化祭等にもかなりの支障をきたす。

全国的にも流行し、ワクチン不足をもたらすようになる。

石油不足・ガソリン不足 ―十二月―

物のあり余った日本に降ってわいたような話。教室暖房にも事を欠く始末。各学校も配給制をとり、チビリチビリと使い苦境を切りぬける。中には引替券を発行してむだづかいを防いだ学校もあるとか。

ガソリン不足は、マイカー教師にとっては大恐慌。スタンドの前は、毎朝長蛇の列。おかげで遅刻する先生も出る。



（ようこそ中国青年使節団）

教育論文入選者

●教育委員会賞　（個人研究の部）

梅園小	島田成子	書けない子から書ける子へ －文集と教師の朱書きを中心とした文章表現力の実際－
奥殿小	柴田敏希	基礎能力をのばす社会科指導の一方途 －「原始」「古代」の学習を通して－
六名小	磯谷栄一	観察事実を大切にした３年「月のうごき」の指導
三島小	長谷川四郎	普通学級における合唱指導 －合唱能力の向上をめざして－
羽根小	渡辺勝英	実践意欲を高める道徳指導 －いきいきとした学習を展開するための発問の追求－
広幡小	伊与田静夫	特殊学級指導記録 －この子らの成長を期し、３児の指導を中心に－
矢作中	稲葉道彦	能力差を考えた書写指導の一例 －中１「つきみそう」の授業を通して－
竜海中	野村鉦吉	チャートブックの利用について －英語－
甲山中	伊奈肇	心の触れ合いを求めて －中学校における学級通信の実践－

●努　力　賞　（個人研究の部）

矢作北小	池田祐二	ひとりひとりを生かす１次感想の展開 －深く豊かな読みとりをめざして－
矢作東小	杉浦健支	主体的な社会科学習を求めて －６年社会科、歴史学習を通して
矢作北小	中山昌司	農業に対する認識を深める社会科学習
秦梨小	近藤薫	数学的な見方、考え方を育てる文章題指導 －基礎能力の伸長をめざして－
大樹寺小	中川朗子	生活指導を生かした１年生の理科指導
山中小	岩瀬郁男	体育指導を通しての動きづくりを試みて
生平小	神尾昌彦	地域社会を見つめる力を育てるために
藤川小	三貝皇	明るい教室づくりを目ざして －実践記録　４年生・５年生－
細川小	長谷部勘弥	子どもの主体性の育成をめざして
根石小	中村厳	実践力を高める学級指導 －資料を生かした授業研究－
竜海中	小久保良	ＦＢ方式とオペレーション複合法による組織化への試み
甲山中	藤田吉信	ＬＬ指導と言語活動
岩津中	榊原豊	ゴミ日記 －自己への戒めの記録－

評

(1)今回の論文について、その特色として次のようなことが言える。

●日常の実践が論文の支えになっている。

日常、実践していることから、積極的に問題点をとらえ、児童・生徒の実態をおさえて、それを解決しようとしている。そこには、教育に対する熱意と子どもに対する愛情が強く感じられる。

●継続的な実践研究を進めている。

実践研究として、一部にはまだ出発点にある論文もみられるが、実践に実践を積み上げ、さらに、それを質的に高めていこうとする意欲がみられる。

長期実践には多くの優れたものがあり、重みがある。また、資料の中に、かなりの期間と労力を必要とする労作が目についた。

(2)この反面、論文のまとめ方においては、次のような点について一考する必要があろう。

●論文の内容が、実態調査や実践例の羅列になりがちである。

論文の中には、実態調査や実践例が多い。そのこと自体はたいせつなことであり、価値のあることであるが、それだけで終わってしまっては実践記録にとどまり、論文として適切なまとめ方とは言えない。仮説を立て、それを検証し、評価・考察を加えて、今後の方向を示すまとめ方が必要であろう。

●実践に理論的うらづけがほしい。

自分の実践の位置づけをはっきりさせ、

昭和48年度

●教育委員会賞　（共同研究の部）

梅園小	算数高学年部会	数学的見方・考え方を育てるノート指導のあり方を求めて －5年「平行四辺形の面積」の指導を通して－
梅園小	理科部	考え方を確かめ思考を高める理科指導 －記録指導のあり方を求めて－
根石小	現職教育 特活委員会	学級指導資料作成とその活用
美合小	現職教育部	学校運営の合理化をめざして －学校運営「みあい」の作成と運用－
東海中	国語部	生活を綴る力を育てる作文指導
竜海中	清水貞生 高瀬昭三 中垣釗	主体的に深求させる理科授業の実践
甲山中	鈴木聡一 永田邦雄	変声の実態とその指導
香山中	現職教育部	みんな見つめてひとりひとりを伸ばす指導 －香山中学校現職教育の歩み－

●努力賞　（共同研究の部）

矢作北小	現職教育部	読む意欲を増し、読む楽しさを育てる物語教材の指導
細川小	図工研究部	個性豊かな創造的表現力を育てる描画指導
岡崎小	山本広子 他5名	自覚にもとづく体力づくり －体力・技能の向上をめざした社会的態度の育成－
梅園小	桜井ちづ子 大山康夫	意欲的にがんばる子の育成をめざして
福岡小	統計教育研究部	統計教育実践の一端
本宿小	現職教育部	見方・考え方を育てる社会科授業の探究 －予見を窓口として－
竜海中	数学研究部	効率的な授業を求めての実践と研究
甲山中	理科部	理科学習指導の個別化をねらって
甲山中	保体部	体力づくりをふまえた体操指導
葵中	クラブ研究部	必修クラブのあり方を求めて －不適応生徒を作らない配慮－
城北中	石川春次 鈴木知子 杉本勝	本校の運動会
美川中	英語部	個を生かすＬＬ学習のシステム化 －特に2WAY SYSTEMにおけるHEARING AND SPEAKING TESTについて－

総

↙すでに明らかになっている教育理論と自分の実践との関係を明確にする。どういう仮説を立て、どういう理論にもとづいて、何を明らかにしようとするのか、そして、その実践によって明らかになったこと、明らかにならなかったことというように、両者を明確にする必要があろう。

●共同研究には一貫性がほしい。

共同研究には、内容的に不統一のものや、一部の人の考えでまとめられているようなものもみられる。共同研究でまとめる場合、論文の全体構想をとらえるとともに、分担部分の役割を明確にする必要がある。

●資料を有効につかう。

資料は多いのがよいというわけではない。それが最も適当な資料であるかどうか、論文構想の段階でよく考察する必要がある。

論文の中で主張したいこと、また、特色ある実践場面など資料にもとづいて的確に論証することがたいせつである。

●用語の概念規定をはっきりさせる。

論文中の、用語のとらえ方があいまいであったり、不正確なため、論文の焦点がぼけてきたり、論述があいまいになったりしがちである。よく吟味した用語の使用が望まれる。

昭和48年度研究発表校の研究動向一覧表

発表月日	校名	分野	研究主題	研究概要	研究資料等(研究物・講師、助言者等)
9月28日	梅園小	国語	「考える学習」の追究。 ー書く活動をとおしてー	・書くことを教科の学習にどう生かすか。 ・教科学習の成果が書く力にどう働くか。 教科学習（国語・社会・算数・理科）の場における言語表現（書く活動）と思考の深まりとの関係の追究	・作文ごよみ（改訂第二次試案） ・実践記録（各教科資料） 1国語　2社会　3算数　4理科 ・この一冊（第十集） ・助言者　指導員、教科世話係
10月19日	大樹寺	理科	主体的に学ぶ心を育てる理科学習 ー実験・観察を通してー	問題をみつけ、解決していこうとする学習の中で、「実験・観察のあり方」をとおして、主体的に学ぶ児童を育てることと、子どもを促す教師の授業研究を事象→関連→価値認識にまで高めるようにすすめた。	・講師　科学教育評論家　小林　実 ・助言者　市理科部長　板倉四郎 青木嘉夫　金山幸義 科学センター主事　川村　泉 ・資料　「実験と観察」　第1集
10月26日	山中小	体育	児童ひとりひとりの体力を伸ばす体育学習 ー動きを高める体操指導をめざしてー	体操領域を焦点に、「どのようにすれば児童ひとりひとりの動きを高め、その可能性を引き出すことができるか」といった観点から、児童ひとりひとりの体力を伸ばす指導のあり方を究明しようとした。	・研究物「児童ひとりひとりの体力を伸ばす体育学習」 ・講師　お茶の水大学教授、松本千代栄先生　・助言者　児玉定夫先生、矢田香子先生
11月9日	岡崎小	体育	「自覚にもとづく体力づくり」 ー体力・技能の向上をめざした社会的態度の育成ー	・3研究部会（学習研究部・業間部・保健部）で、互いに連けいしながら社会的態度育成のための研究実践を進めてきた。 ・自己または相互評価の併用による、児童の意識化、向上への意欲化をはかった。	・体操セット（低・中・高） ・研究紀要 ・学習指導案 ・資料「社会的態度に関する研究」 ・講師　愛教大　美濃部栄先生
2月5日	六北小	音楽	基礎をふまえた音楽科学習指導 ーリズムを中心としてー	基礎を培うのに、リズムの系統化から取り組み、教材を有機的に構成しなおした。 しかも、技術中心ではなく、音楽する心主体的に学習する姿勢を重視した音楽学習のあり方を地道に積み上げてきた。	・研究物「研究要項」 「音楽科年間指導計画案」 「音楽科指導細案」学年分冊 「音楽ガイド」　学年分冊 ・講師　愛教大　永見貞三先生
11月14日	甲山中	保健体育	体力づくり 正しい姿勢が持続できる生徒の育成	正しい姿勢の持続→基礎体力の充実。 この考えから、体力づくりを体操にもとめサーキット場を利用した自然運動の中で、自主的な活動を通して体力の育成をねらっている。	・研究紀要「正しい姿勢が持続できる生徒の育成」 ・16㎜映画「強靱な体力づくりをめざして」 ・指導助言者　愛教大美濃部栄先生
11月21日	南中	特別活動	自発的活動の育成をめざす特別活動 ーよりよい集団活動と人間関係の育成をめざす動機づけー	①特別活動の運営方法と内容の統合についての再検討　②生徒の活動を、設定した集団の要素によっての分析研究、③動機づけの方法を、設定した集団の要素と、自主性の観点とのかかわり合いについての研究。	紀要　「自発的活動の育成をめざす特別活動」特別活動の指導 生徒活動の指導・学級指導・特別活動の資料・NHK放送記録 指導　愛教大　相川高雄教授
1月18日	東海中	作文指導	ー生活を綴り 生活を高める 子どもー	国語では、 作文力の発達段階に即した認識・表現の統一的指導 学級では、 日記指導。一枚文集、個人文集づくり、	東活の教育（B6版150P） ——生活を綴り、生活を高める子ども—— 記念講演　「作文指導の原点」 講師　中村万三先生
3月1日	生平小	給食指導	「たのしい給食の指導 ー合理化・能率化をめざしてー	楽しい給食の指導を合理的能率的に進めるため、環境づくりはどうしたらよいか、偏食児、小食児、遅食児、マナーの悪い児童の指導はどうしたらよいかについて、実践の中から指導の方法を探った。	安城学園大学教授　稲垣　翠 額田郡坂崎小学校校長　伊沢園彦 稲武町立押川小学校長　伊藤喜六 岡崎市教委正栄養師　高木節子 現職教育給食部長　竹田正夫

体育館・校舎相つぎ完成

―第二学校給食センター始動も間近か―

昨年来の異常な資材不足、物価高にもかかわらず、岡崎市の四十八年度公共、教育関係施設建設工事は予定どおり順調に進んでいる。これは、発注を早めるなどの対策、努力によるものだが、関係学校では相次いで喜びの完工式が行なわれる。関係施設の概要次のとおり。

●体育館

広幡小＝鉄筋二階建八四三平方㍍ほか。総工費四五五二万円。主体施工三和建設

岩津中＝鉄筋二階建九二五平方㍍ほか。総工費四七九九万円。主体施工カトウ建設

三島小＝鉄筋二階建八四三平方㍍ほか。総工費三九七八万円。主体施工杉林建設

●校舎

矢作東小＝鉄筋四階建一七〇四・八一平方㍍増築など。総工費八七四五万円。矢田組

細川小＝鉄筋三階建七七八・二平方㍍増築など。総工費は四二九七万円。深見建設。

甲山中＝鉄筋四階建四三六八・六九平方㍍増築など。総工費二億一二一〇万円。太田建設

●学校給食センター

第二センター（岡町、美合小西方）鉄筋二階建調理室など二三三一・一八六平方㍍・総工費一億六七三八万円。杉林建設。

■「新訂学校事務の手引」完成

◆月報岡崎の教育編集委員

新企画、それも月刊となると企画、取材、整理、校正、配布等々、編集活動は息つく間もない。六月創刊から三月号までの編集を担当してくださった先生方は次のとおり。（敬称略）

・糟谷正孝（六名小長）権田梅芳（美合小長）大野洋鵬（甲山中）鈴木依治（東海中）都築泉（矢作東小）山田利一（男川小）林勝己（岩津中）早川円浄（井田小）黒野喜美（福岡小）嶋田稔（井田小）北川英雄（六名小）

完成を待たれていた「新訂・学校事務の手引」が年度内に刊行の運びとなった。

これは、既に現場事務の実情に合わなくなった昭和三十七年版に代わる手引で、改訂委員会の一年近い努力により広範な内容を使い易い形でまとめたもの。現場教職員必携の資料。改訂委員は次の方々。

・滝口忠男・塚本時丸・高橋孝大原和之・内田松夫・鈴木義治後藤君平・宇野五郎・安藤幸夫水野文代・長浜宏雄・荻野良雄（以上教員）渡辺亘夫・早川登喜夫・安藤美代乃・安藤裕子（以上事務職員）（学校名と敬称略）

■視聴覚ライブラリーだより

県教委・県視連主催の自作視聴覚教材コンクールに次の二作品が入賞、関係者の努力が高く評価された。

○優秀賞（八ミリ映画部門）「緑と清流の町づくり」＝視聴覚と社会科主任会共同製作

○努力賞（八ミリ映画部門）「岡崎公園の木」＝視聴覚主任会・理科主任会共同製作

図書紹介

学校は死んだ

川上源太郎
ごま書房　　４８０円

何というショッキングな書名だろう。教師なら思わず手にせずにはいられない本である。

戦後の民主主義教育にも欠陥はあるにせよ、「死んだ」「殺した」「犯人」などという大げさな表現には疑問を抱かずにはいられない。

しかし、同じ教育者が鋭い洞察力によって、親や教師に訴えている問題点については考えさせられる面も多い。とはいえ、読み終わって感じることは、「学校はりっぱに生きている」ということである。

（常磐東小　石川志郎）

きょうを生きる

山田　無文
講談社現代新書　　２３０円

「仏法」というものに関心がなかったわたしだったが、この本を読んで、仏の教えは、古くて新しい教えであり、現代人の心の糧ともなると思った。そして、人としての歩む道がすこしわかったような気がした。

「人間に悪人はいない。人間は誰でもきれいな心をもっている。」人間が生まれながらにしてもっている誠実と思いやりのある心を失わずに一日一日を今日限りと、精一杯生きていきたい。

（城北中　佐竹　達子）

いま学校で

朝日新聞社
朝日新聞社　　４００円

新聞連載当時から反響が多く、本になってもベストセラーだという。

この本は、小学校を対象に「ありのままの学校の姿を見つめること、いま、学校でおこなわれていることを細大もらさず冷静な目で見つめること」に主眼をおいている。知育偏重の実情と心の交流の欠如、新幹線なみのスピードで教科書をこなさなくてはならない教室の現状…。手作りの感触を忘れ、規則が多くなってきたといわれる小学校教育――こういう問題に直面している教員の現場を新聞記者の足と眼で追跡している。

（三島小　金子一元）

3月の行事

日	曜	行　　事
1	金	小中特殊教育研修会(連尺小)　市育英会学生寮入寮申込受付 教務主任会（市役所）　（11日まで、学事）
2	土	
3	日	
4	月	月報編集委員会（市役所）
5	火	教職員の研修に関する委員会（甲山閣）
6	水	市養護部会研修会（若葉学園ほか） 三島小、広幡小体育館完工式
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	三島小学校百周年記念式 第4回岡崎市民スケート大会（スポーツガーデン）
11	月	
12	火	
13	水	
14	木	中学校卒業式　「岡崎の将来像」図画表彰（市役所）
15	金	
16	土	公立高等学校入試（全日制） 第18回新入学を祝う会（市民会館）
17	日	
18	月	家庭訪問児童保護者会（碧南）
19	火	学校開放事業連絡協議会事務長会（市役所）
20	水	小学校卒業式
21	木	春分の日
22	金	公立高校合格者発表（全日制）
23	土	小中学校終了式
24	日	岡崎小学校百周年記念式 岡崎市春季一般男女軟式庭球大会（公園）
25	月	市子ども会育成者連絡協議会年度末幹事会（市役所） 東部学校給食センター完工式
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	公立高等学校入試（定時制）月報編集委員会
31	日	

窓

「ありがとう」の一言

犬塚恒夫

春がもうそこまできていた。

ある駅で、子どもとその祖父らしい老人が乗車した。バスの中は、かなりこんでいた。

〈どうするかな〉と思っていると、若い青年が席を譲ったので私もほっとした。

バスは郊外を快く走った。しばらくすると、老人は子どもをうながして下車の仕度をはじめた。老人が料金を払い、降りようとした時、子どもが、「あっ忘れた。」といって自分の席の近くまで戻って、先の青年に「おじさん、ありがとう」と頭をさげ、降車口に走っていった。忘れ物でもしたのかなと思っていた車内の人々は、微笑をもってその子どもを見送った。

子どもの自然のしぐさが、バスの中の人々の心に灯をともし、外の風景が一だんと輝いて見えた。

（六ツ美中）

編集後記

●…卒業式も間近い。子どもたちは、それぞれになんと大きく成長したことか。新たな希望を懐いて巣立ち行く子等に幸多かれ。

●…教育随想には、市助役鈴木弥一郎先生の玉稿をいただいた。「恩愛の絆をたぐりつつ教育の道の厳しさを惟う」と結ばれている。恩愛われを去りて去りやまぬ先生の厳しい教師道。味読していただきたい。

●…今月号は、48年度の岡崎の教育を回顧し、想い出のよすがにするとともに、新年度の展望をと、増ページをして編集した。

●…新年度は、装いも新たに、発刊の辞の理念に立返り、より充実した月報をおとどけしたい。

●…本誌のカットは、矢作中青木宏氏教諭の力作である。